



# ありあけ

佐賀大学農学部  
同窓会報  
No.16

発行日 2015年7月1日  
編集 会報編集委員会

発行 佐賀大学農学部同窓会  
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700  
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp  
ホームページ http://dousou.saga-u.ac.jp/

## 巻頭言



## 農学部設置60周年に寄せて

国立大学法人佐賀大学長 佛淵孝夫

佐賀大学の歴史は、1949（昭和24）年に新制国立大学として誕生した旧佐賀大学と1976（昭和51）年に無医大県解消を目的として設置された佐賀医科大学が2003（平成15）年10月に統合し、新生佐賀大学として5学部を有する総合大学となりました。その後、2004（平成16）年には、全国の国立大学と共に法人化され、現在の国立大学法人佐賀大学となりました。

この間、農学部は1955（昭和30）年に設置され、幾度の改組・拡充を経て、現在の3学科・7講座と1修士課程、附属アグリ創生教育研究センターを有し、鹿児島大学大学院連合農学研究科に参画する現在の農学部の姿となっており、毎年、約660名の学部学生、約80名の修士課程、約20名の博士課程の大学院学生がここで学んでおります。

また、農学部の教育・研究の最近の取り組みとしては、社会人を対象とした農業技術経営管理士（MOT）育成講座の開設や本学のオリジナル清酒「悠々知酔」の製造、バラフの商品化、全国初となる国産グレープフルーツ「さがんルビー」の品種登録など、これまで農学部が積み重ねてきた叡智が、様々な形となって表れてきております。

また、本学と西九州大学との共同申請である大学COC（center of community）事業では、アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プログラムや産学連携による機能性食品の開発など、全学的な教育研究プロジェクトも実施が開始されています。

一方で、法人化以降、更なる効率的な大学経営が求められる中で、新しい教育課程や学内施設の整備を着実に進めてまいりました。そういった中で去る2013（平成25）年10月には統合10周年にあたり、同窓会や地域の皆様のお力もおかりしながら、新たな本学のシンボルとなる正門の整備と美術館をオープンすることができました。

もちろん今日の佐賀大学は、同窓会をはじめ多くの関係者の皆様方の弛みないご努力や真摯な取り組みの上にあり、こういった先人が辿ってこられた道程を忘れることなく、本学の理念でもあります「地域と共に未来へ向けて発展し続ける大学」を目指して構成員一同、邁進していきたく思います。

どうぞこれからも皆様の母校であります佐賀大学に変わらぬ御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 第30回（平成27年度）同窓会総会等を開催

佐賀大学農学部同窓会では、平成27年5月23日（土）に農学部大講義室で、第30回総会を開催し、平成26年度の事業実績・決算、平成27年度の事業計画・予算、役員改選についての審議を行いました。本年は、県内支部会員を中心に61名の皆様に出席していただきました。

総会は、白武義治副会長の開会に始まり、川副操会長の挨拶、議事に先立ち議長に宝蔵寺博（S45年卒・土地改良）氏を選出していただき、議事に入りました。

川副会長の挨拶では、今回の総会が第30回という区切りであり、このあと開催される農学部創立60周年記念式典も併せて、記念すべき総会になることと、これまでの皆様のご協力に対する感謝を述べ、昨年度の活動と課題を報告しました。活動としては、同窓会員のネットワー

ク作りとして地域組織の創設を進めていること、在学生への支援として教職員の方々と卒業生との交流会を開催したことなどを報告しました。今後の活動の活性化のためにも同窓生皆様のさらなるご協力をお願いしました。

議事は、本部執行部から平成26年度事業報告・収支決算の報告、平成27年度事業計画・収支予算（案）の提案、これに対する質疑応答、採決を経て承認されました。また、2名の副会長と4名の理事交替も承認されました。なお、これらの内容については次頁をご覧ください。

平成27年度の事業計画、収支予算では、農学部60周年記念行事に対し、農学部への記念品の贈呈などの事業を行い、その費用として特別会計から支出することも承認いただきました。（S59年卒・育種・重富 修）

## 佐賀大学農学部創立60周年記念式典が開催されました

平成27年5月23日に農学部創立60周年の式典が、農学部大講義室で開催されました。

式典では、まず渡邊農学部長が式辞を述べられました。このなかで、農学部が設立して60年を迎える今、「地域と共に未来へ向けて発展し続ける大学」をめざし、地域産業の振興と社会の持続的発展に貢献できる人材の育成、なかでも農業版MOT講座による高度な専門技術と経営能力を有する人材の育成。豊富な遺伝資源をもとにした新品種開発や機能性食品の開発やコスメ産業の集積化への参画。さらに異分野融合型の新研究領域を取り入れた新しいアグリ創生の取組みなどを行っている。今後、農業県佐賀における農学部の果たす役割が大きくなるなか、生涯健康で生きていける地域社会の構築をめざして、教育、研究、地域貢献をますます充実させていく決意を述べられました。

続いて、佛淵学長の挨拶、来賓の佐賀県知事山口祥義様の代理として副知事牟田香様ならびに佐賀県農業協同組合中央会会長中野吉實様の代理として専務理事古賀孝博様からご祝辞をいただきました。

農学部同窓会からは、川副会長が60周年の記念品として「農学部の歌」（これは歌詞を公募します）と大講義

室用に掛け時計の目録を贈呈しました。

講演会では、筒井ガンコ堂様に「国際化時代の食文化と健康」と題して基調講演をいただきました。講演の大まかな内容は、「日本人が長年育ててきた食文化が、高度経済成長を機に国際化や流通の変化、生活の変化などで失われつつある。それに伴い健康への影響の懸念も大きくなってきている。食文化は地域固有の文化であり、これを守り、佐賀県産の安全安心な農産物を使っておいしく食べよう。」というものでした。ご自分の経験や編集者としての見識をもとにした貴重なお話で、しかもユーモアも交え、楽しく聴かせていただきました。

その後、「後輩へのメッセージと期待」と題し、卒業生である宇都宮大学准教授児玉豊様と株式会社オプティム代表取締役の菅谷俊二様に講演をいただきました。児玉様は研究という道へ進んだきっかけと、これまでの研究者としての経験から、「人と違うことを考え実行することの大切さ、没頭することの楽しさ」などを熱く語っていただきました。また、菅谷様は、在学時代に起業したという貴重な経験から、「好きなことを色々やってみることが大事で、その中で人生を変える出会いが必ずあるので、若い今こそ一歩を踏み出そう」と、こちらも



佐賀県副知事 牟田 香 氏



佐賀大学農学部 学部長 渡邊啓一 氏

熱く語っていただきました。どちらのお話も参加した在学生にとって、この上ない応援メッセージになったと思います。

その後、アトラクションとして佐賀大学混声合唱団コーロ・カンフォーラの合唱と佐賀大学オーケストラ管弦楽団の演奏があり、短い時間でしたが、ほっとするひ



講師 筒井ガンコ堂 氏

と時をすごしました。

場所を大学会館に移して行われた記念祝賀会では、講演をいただいた講師の方々や退官された先生方を交え、懐かしく楽しい集いとなりました。

(S59年卒・育種・重富 修)



後援会 会長 鵜池直之 氏



佐賀大学同窓会 会長 金丸安隆 氏



懇親会「大学会館」

## ■ 役員の選任

役員の一部を改選しました。

担当役職	氏名	卒年・学科(専攻)
副会長	青木 久生	S58・園芸(野菜)
副会長	光富 勝	S51・農化(食品)
理事	白武 義治	S51・農学(農経)

担当役職	氏名	卒年・学科(専攻)
理事	松枝 隆幸	H2・農学(育種)
理事	中尾 淳	H3・農土(干拓)
理事	岩吉 豊治	H2・農学(作物)

## 農学部同窓会会員の皆様へ

# 「佐賀大学農学部応援歌」歌詞の募集

農学部会報「ありあけ」のご愛読、ありがとうございます。

さて、平成27年度(5月23日)の総会で「佐賀大学農学部創立60周年記念」として、同窓会より学部へ、学部・在学生が元気の出る歌…「農学部応援歌」…を送ることにしました。つきましては、会員(準・賛助会員の方を含む)の皆様方へ作詞をお願いいたしますので、奮ってご応募ください。

### コンセプト

学生諸氏が口ずさむような  
明るい歌詞を、自由な発想で

### 応募の方法

郵送先 佐賀市本庄町1番地  
佐賀大学(菱の実会館)内  
佐賀大学農学部同窓会事務局

メール送信先  
dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

### 応募の中から

最優秀賞(賞金10万円)…1点  
佳作(賞金3万円)…2点  
(なお入選作の著作権は、同窓会に帰属します。)

### 応募の期限

平成27年9月30日(水)

## 平成26年度事業報告及び収支決算

(H26.4.1～H27.3.31)

## ■事業報告

次の事業を実施し円滑な同窓会活動に努めました。

- (1) 支部未加入者の既存支部加入、地区別組織設立への働きかけ等の取組。(神埼・有田地区で意見交換など)
- (2) 大学と同窓会との意見交換会の開催。
- (3) 在学生・教職員・卒業生の交流会の開催。
- (4) 会報「ありあけ」14、15号の発行・配布。
- (5) 大学主催のキャリアデザイン講座や就職ガイダンス、農業版MOT講座等の支援。
- (6) 農学部同窓会支部や全学同窓会支部への支援。
- (7) 同窓会員名簿の整理、会員へのデータ提供。

## ■収支決算

- (1) 一般会計

## 【収入の部】

単位：円

科 目	26年度実績
前年度繰越金	362,481
会 費	4,760,000
学生(新入生)	3,476,000
一般会員	1,284,000
雑 収 入	162,151
特別会計戻入	500,000
計	5,784,632

## 【支出の部】

単位：円

科 目	26年度実績
事 務 費	791,844
会 議 費	674,062
事 業 費	1,226,893
組 織 強 化 費	538,704
全学同窓会負担金	1,738,000
特別会計への繰出金	529,000
新入生入会金	79,000
会費平準化準備金	450,000
予 備 費	100,000
計	5,598,503

(収入)5,784,632円 - (支出)5,598,503円 =  
186,129円 (次年度繰越金)

- (2) 特別会計

## 【収入の部】

単位：円

科 目	26年度実績
前年度繰越金	14,370,960
一 般 分 a	7,420,069
会費平準化準備金 b	6,950,891
入 会 金 c	79,000
会費平準化準備金 d	450,000
雑 収 入 e	1,636
計	14,901,596
一般分(a+c+e)	7,500,705
会費平準化準備金(b+d)	7,400,891

## 【支出の部】

単位：円

科 目	26年度実績
繰出金	500,000

次年度繰越額は14,401,596円

## 平成27年度事業計画及び収支予算

(H27.4.1～H28.3.31)

## ■事業計画

- (1) 会員に対し同窓会を、より身近なものとしていくため、支部の体制・活動をより充実するとともに、会報を発行するなど各種情報の提供を行う。
- (2) 更なる組織の強化・活性化を図るために、支部未加入者を対象として既存支部への加入促進や、地域組織との連携を図る。
- (3) 農学部と同窓会との意見交換会を開催するなど、相互に連携した取組を行う。
- (4) 準会員である学生に対する支援を行うとともに、卒業生との交流促進に取り組む。
- (5) 農業技術経営管理士(農業版MOT)養成の取組に連携して協力支援を行う。

## ■収支予算

- (1) 一般会計

## 【収入の部】

単位：円

科 目	27年度予算
前年度繰越金	186,129
会 費	4,320,000
学生(新入生)	3,520,000
一般会員	800,000
雑 収 入	101,000
特別会計戻入	500,000
計	5,107,129

## 【支出の部】

単位：円

科 目	27年度予算
事 務 費	740,000
会 議 費	380,000
事 業 費	955,000
組 織 強 化 費	500,000
全学同窓会負担金	1,760,000
特別会計への繰出金	380,000
学生入会金	80,000
会費平準化準備金	300,000
予 備 費	392,129
計	5,107,129

- (2) 特別会計

## 【収入の部】

単位：円

科 目	27年度予算
前年度繰越金	14,401,596
一 般 分 a	7,500,705
会費平準化準備金 b	6,900,891
入 会 金 c	80,000
会費平準化準備金 d	300,000
雑 収 入 e	2,000
計	14,783,596
一般分(a+c+e)	7,582,705
会費平準化準備金(b+d)	7,200,891

## 【支出の部】

単位：円

科 目	27年度予算
繰出金	500,000
一般会計へ繰入	500,000
農学部60周年記念行事	1,000,000

## 恩師からのメッセージ

平成27年3月に佐賀大学を退職された神田康三先生、廣間達夫先生から卒業生、在校生へのメッセージを賜りました。

### 佐賀大学農学部、 四半世紀の思い出

神田 康三



1989年11月1日に佐賀大学農学部応用生物学科生物化学系応用微生物学教室に九大から転任してきました。今まで南に見えていた脊振山脈が北に見えます。それはともあれ一番びっくりしたのは、大空に舞う無数の気球でした。これには感動しました。この年は特に世界選手権が開催されていたため、これまでにない気球の多さだったとか。赴任早々胸膨らんだことが思い出されます。それから四半世紀（正確には25年5か月）、心に残るたくさんの思い出の中で、いくつかを述べたいと思います。

赴任翌年4月から微生物学の講義をまかされました。当時は農学部の1学年全員が受講可能でしたので、大講義室が学生さん達でいっぱいとなり圧巻でした。講義室には傾斜がつけてあり、教壇から見ると後ろの席まで学生さんの一挙一動が、はっきり確認できます。これには自分の学生時代を思い出して、バレていたのかと冷や汗がでました。そこで、年に一度は後ろの席の学生さんを教壇に立たせてみました。皆一様にギョッとした顔をしていました。また、講義を重ねるごとに、学生さん達の学習態度に一定のパターンがあることに気づき驚きました。講義内容が理解不能と感じるや否や（放棄するかと思いきや）、迷うことなく丸暗記です。しかも、それができちゃうんですね。なんとというクオリティの高い頭脳！うらやましい次第ですが、使い方がでたらめすぎます。これでは次の課題に取り掛かる時には、前の項はすっかり消去されるのは当然のことです。中学から高校にかけて、これで乗り切ってきたのでしょうし、乗り切れてきたのでしょう。しかし、これではポルシェをオートマチックにして乗り回すようなもので、本来の爽快感は味わえていないはずで。暗記の前に理解する一工夫をしてみると、今までにない恍惚感に出会えるはずと最後まで言い続けてきました。

3年生の4月から5月半ばまでの一か月半、毎日午後は微生物学実験が行われます。その実験項目は酵母、カビ、細菌、ウイルス（バクテリオファージ）

そして遺伝子操作基礎実験で、その豊富な実験内容は他大学の先生方も一様に驚かれると同時に、うらやましがられます。最初は嫌悪感をもっていたカビも、その美しさに魅了されて何時までも顕微鏡から目を離さない学生さんが毎年数名はいます。また、遺伝子操作基礎実験はグループ実験として赴任後新たに始めました。制限酵素等の遺伝子関係試薬が高価であったにも関わらず、この実験が遂行できたのは（現在も遂行中）、ひとえに懇意にしていたニッポンジーン社長の好意による試薬の無償提供に依るものであります。人との交流は大事にしたいものとしみじみ感じています。

ところで、私が所属した応用微生物学教室は初代故猿野名誉教授の醗酵生産学以来の同門会があり、通常毎年3月第一土曜日に開催されます。2代目村田名誉教授、3代目加藤名誉教授をはじめ、かつての卒論生たちが卒業後も事情の許す限り寄り集うことから、教室の一大例年イベントとなっています。私もこれからは4代目として参加させていただきます。世話人である5代目小林教授、よろしく願います。

それでは佐賀大学農学部の益々のご繁栄を祈念して、この辺で筆をおきます。

### 退職の挨拶

廣間 達夫



農学部同窓会の皆様に退職の挨拶をします。私は2011年4月に、岩手大学から佐賀大学に赴任してきましたので、佐賀大学での在職期間は僅か4年間です。

私の専門は農業機械学であり、岩手大学時代は農業機械学科農業土木機械学講座（学部改組で大きく変更されましたが）に所属していました。隣県の秋田県で終戦後に干拓された八郎潟で、農業機械による機械化農業の実施により、食糧増産の試みが始められましたが、八郎潟のヘドロ状態の土壌で苦労したことから、岩手大学の農業機械学科に、農業土木機械学講座が作られたようです。そこで私は、農業機械の走行性改善を目的として、軟らかい土壌を対

象にした車輪の走行力学をメインに研究しました。佐賀大学のある佐賀県には、有明海を干拓した佐賀平野が広がっています。佐賀大学では、水稲一麦一大豆一麦の2年4作が行われており、低コストかつ省力的な栽培法である乾田直播栽培体系を試みられています。この栽培体系では水稲作付け時における漏水の防止が課題となっています。そこで振動転圧ローラを用いた漏水防止のための研究を行いました。漏水の防止効果は転圧時の圃場の含水比に影響されることがわかり、転圧モデルを提案することができました。

佐賀県には意外な共通点があります。盛岡市在住の小説家、高橋勝彦氏です。彼は、「取材で一度訪れた場所だが佐賀が好きなのである」と書いています。高橋勝彦氏の小説に、「火城」があります。幕末の肥前藩士・佐野常民の前半生を描いた小説です。佐野常民は、日本赤十字社の生みの親です。小説では、からくり儀右衛門こと田中久重父子他をスカウトして蒸気船、蒸気機関車の国産化を目指した過程、蒸気機関車の模型製作に成功するまでを描い

ています。明治維新という回天の事業は、薩長土肥が原動力になったといわれていますが、幕末に活躍した西郷隆盛、大久保利通、吉田松陰、高杉晋作、坂本龍馬、板垣退助らは、薩摩藩、長州藩、土佐藩の人で、肥前の人が入っていないのに、なぜ薩長土肥なのか疑問に思っていました。「火城」を読んで、その疑問が解けました。藩主鍋島閑叟は、薩長他の尊王討幕派や公武合体派と距離をおき政局や時論に惑わされることなく、ひたすら最新技術の導入や技術革新に専念していて、本の中で閑叟は語ります。「人は先をとす灯でもある。今の世にあつて佐賀ほど先を照らす人間を集めている国はなかろう」。蒸気機関車、電信など佐賀藩の技術力が明治維新、さらには技術立国日本に大きく貢献しました。佐賀市内を歩くと（自転車に乗って）、縄文時代の遺跡跡、大隈重信生家、反射炉とカノン砲の碑などがあり、歴史を感じます。

歴史ある佐賀の地で研究教育の機会を与えていただき、感謝しています。佐賀大学で残してきた課題があり、今後とも続けていきたいと考えています。

## 佐賀大学・大学院の学位記授与式、農学部同窓会長賞授与

佐賀大学・大学院の学位記授与式が3月24日、佐賀市文化会館でありました。農学部卒業生161人と農学研究科修士35人が学位記を受けました。学長は「高い志を持って、教養と見識を涵養し、社会の一員として絶えず人間力を高めつつ様々なことに挑戦してほしい」と式辞。引続き、農学部卒業祝賀会があり、学部長賞が3名に、研究科長賞が5名に、同窓会長賞が4名に授与されました。同窓会長賞受賞者の寄稿を次に示します。(S51年卒・農経・白武義治)

### ■■ 農学部同窓会長賞 受賞者の手記 ■■



生物環境科学科

吉田 莉 恵

この度は農学部同窓会長賞という光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

私が所属する研究室では、土壤にまつわる農業・環境問題に関する研究に取り組んでいます。

私はこの1年間、東南アジアで広まりつつある低投入型の新しい稲作方法(System of rice intensification: SRI)の適切な水管理方法の指標を得るために、水田土壌中の水分のモニタリングを行いました。初めは、モニタリングがうまくできず、原因も分からず、試行錯誤の繰り返しでした。また、

作物を扱うため、慎重に進めなければならず、苦勞もありました。圃場管理を任せられ、うまくいかない時は責任感を強く感じましたが、研究室のみんなと協力し成し遂げたときには何倍ものやりがいを感じました。初めて学ぶことが多く、自学の大切さを実感しました。また、研究結果報告のために土壤物理学学会へも参加し、ポスター賞を頂いたこと、卒業論文発表会で優秀賞を頂いたことは社会へ出ていく大きな自信にもつながりました。

大学の4年間の中でも研究室生活は大変濃いものでした。そして、仲間や先輩、先生方からは多くことを学び、刺激を受け、心身共に鍛えられました。多くの方の協力があつたおかげで研究を進めることができ、結果も出すことが出来たと心から感謝しております。

私はこれから農業土木コンサルタントに入社し、

研究室で学んだことを活かせる環境で働きます。農業を営むにあたって重要な役割を果たすこの仕事に取り組めることを大変嬉しく思っています。他県に

行くため不安や心配もありますが、この研究室で学んだことを思い出しながら、新たなことを学び、前進していこうと思います。



生物資源科学専攻

## 安達 修平

この度は、農学部同窓会長賞という賞をいただき、誠にありがとうございます。

私は、修士課程の2年間、「北部九州におけるセイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ（カメムシ目：アブラムシ科）の季節消長と夏季没姿現象のメカニズム」についての研究に取り組んできました。一部は害虫として知られ、昆虫類の中でも卓越した増殖能力をもっているアブラムシですが、なぜか多くの種が夏季には姿を消してしまいます。特に草本植物を寄主とするアブラムシについては、その多くがその間どこで生活しているのか、なぜ消えてしまうのかといったことは未解明のままです。そこで、夏季は山地でのみ生活していることが分かっているセイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシを用いて、本種の夏季没姿メカニズムの解明に取り組みました。様々な標高帯で本種の季節消長を調査し、さらに室内および野外実験により詳細に本種の生育を調査した結果、本種は植物側の影響（質の低下）により初夏に平地と山地の両方で個体数を激減させ、高温により真夏に平地では死滅し、山地（標高500m付近）

のみで生存していることが明らかとなりました。この研究成果が認められ、「第58回日本応用動物昆虫学会大会」にてポスター賞をいただきました。

また、一般の方々に生き物の魅力を伝える機会にも恵まれ、独立行政法人国立青少年教育振興機構「こどもゆめ基金助成活動」の「昆虫に夢中の夏キャンプ」や、東よか干潟自然観察会及び干潟交流事業にボランティアのスタッフとして参加させていただき、また佐賀昆虫同好会の例会などで自身の研究内容について紹介させていただきました。

修士課程の2年間は成功よりも失敗の数の方がはるかに多く、辛い時もありましたが、熱心にご指導いただいた指導教員の徳田誠准教授を始め、実験や調査にご協力いただいた研究室の方々、そして不自由のないようにいつも支えてくれた両親のおかげで充実した研究生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

私はこれから博士課程に進学し、引き続き徳田准教授のもとで新たにアブラムシとウイルス、植物の3者間相互作用に関する研究に取り組むつもりです。多面的な視点から生物間同士の関わり合いを理解し、どんどん新しい発見をしていける、そんな研究者になれるように日々努力していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



生物環境科学科

## 大坪 栄二郎

この度は同窓会長賞という栄誉ある賞を頂き、深く感謝申し上げます。今回は私の卒業研究のテーマである、「東日本大震災にともなう河川環境の放射能汚染」への取り組みをご評価いただきました。

被災地の河川における放射能汚染は、震災発生後4年が経過した今も続いています。私は福島県をはじめとする放射能汚染が問題となっている地域に、何度も現地調査で訪れる機会に恵まれました。東北の調査は何度も行くことはできないため、出発の前に仮説を立て、計画を練り、必要な器材の準備や現地での段取りに念入りに取り組みました。しかし実際に現地で調査をしていると、悪天候や予期せぬで

きごとの発生など、計画通りにすまないことが多くありました。また調査で得られたデータの分析・解析していても、予想していた仮説に沿わない結果が出てくることもよくありました。そのような予期せぬできごとがある度に、指導教員の上野先生や共同研究の先生方からご助言をいただき、少しずつ解決していくことができました。このような体験を通じ、自分自身が大きく成長できたと実感できました。私はこれらテーマをより深く学ぶため大学院への進学を決意しました。

最後に、4年間の大学生活をご指導いただきました佐賀大学の先生方と先輩方、切磋琢磨した同級生、なにより私の学業を支え進学を後押ししてくれた両親に感謝いたします。これからも学業に励みつつ、佐賀大学農学部の卒業生として同窓会へ貢献出来るよう努力していきたいと思っています。ありがとうございました。



応用生物科学科

## 長岡 希隆

この度は、農学部同窓会長賞を頂きまして、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を受賞させていただけるとは思っておらず、非常に驚いているとともに、大変光栄に存じます。これも、全ての研究活動において懇切なるご指導を賜りました野間口眞太郎先生ならびに諸先輩方、また、常日頃から様々な形でご支援いただいた同輩・後輩の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

私は「シリアゲムシ類」というグループの昆虫を対象に、その特徴的な求愛行動について研究を行ってきました。シリアゲムシ類のオスは、なんとメスのためにギフト（食べ物）を用意し、それをメスに贈呈して気を引くのです。メスがそのギフトを気に入って摂食を始めると、オスはメスが食事の時だけ交尾を行うことができます。このような求愛を「婚姻贈呈」といい、オスは婚姻贈呈を行わなければメ

スに交尾を拒否されてしまいます。したがって、シリアゲムシ類のオスにとって、婚姻贈呈は交尾を成功させるために重要な行動なのです。しかし、オスはこの大事なギフトをせっかく用意したとしても、それをメスの所まで運ぶようなことはせず、ギフトのそばで待機します。これでは、メスがやってこない限り婚姻贈呈を行うことができません。では、シリアゲムシ類のオスはギフトを運ばずにどうやって婚姻贈呈を達成しているのでしょうか？私はこの疑問を解明すべく、日本で最普通種のシリアゲムシ類であるヤマトシリアゲを材料に研究を行いました。その結果、本種のオスは2-ペンタノンという物質を放出することで、メスをギフトのある場所まで誘引しているということがわかりました。この成果発表を行った日本動物行動学会第33回大会では、幸いにもポスター賞を受賞させていただきました。

今後も、私はシリアゲムシ類の繁殖行動に焦点を当てて研究を続け、彼らの色恋沙汰について皆様に面白い話題を贈呈できればと考えております。皆様に少しでも昆虫について興味を持っていただければ幸いです。

# 佐賀大学農学部 創立60周年記念

## — 後輩へのメッセージと期待 —

株式会社 オプティム 代表取締役社長 菅谷 俊二

### 1. はじめに

2000年当時、私は佐賀大学農学部生物生産学科に在籍中に、「株式会社 オプティム」を設立しました。現在でも、本店は佐賀県佐賀市、本社は東京港区愛宕にかまえており、スタッフ170名とITベンチャー企業として日々奮闘しております。皆様のお力添えもあり、昨年10月22日には、佐賀県内企業初となる東証マザーズ上場を果たすことができました。

当社は、「ネットを空気に変える」というスローガンを掲げ、もはや生活インフラとなったインターネットが、いまだに利用にあたりITリテラシーを必要とする現状を変え、インターネットそのものを空気のように、全く意識することなく使いこなせる存在に変えていくことをミッションとして、製品・サービスの開発に尽力しています。

### 2. 自己紹介

1976年兵庫県神戸市に生まれ、1996年佐賀大学農学部生物生産学科に入学しました。（入学年齢が20歳なのは、1浪だからです…。）実は、大学受験の際には、佐賀大学が第一志望ではありませんでした。受かると思っていた前期日程の受験に失敗してしまい、後期日程の願書を取り寄せておりませんでした。日程もなく願書を急いで取り寄せようとしたのですが、どの大学も大学まで願書を取りにきてくださいと言われ、このままでは受験できないと思っていました。しかしそのような中、佐賀大学だけは非常に寛容で後期日程の願書を宅急便で送ってくれました。このようなご縁もあり、佐賀大学農学部に入学することができました。私が入学した1996年、日本ではインターネット元年とよばれ、インターネットがまだ珍しい時代でしたが、佐賀大学は大変オープンな環境

でネットが自由に使えました。このような背景もあり、当初から起業に興味があった私はこの頃から日本で初めての価格比較サイトを開始し、オプティムの原型となる会社を始めました。

また、1998年には植物工場に興味を持ち、小島先生、田中先生にお願いし、施設園芸栽培の研究室に入らせていただきました。しかし、その頃にはビジネスを立ち上げおり、ネットの中心である東京で活動しなければ機会を失うと考え、勝負をしようと決意し、休学しました。

その後、2000年3月には、大前研一氏、孫正義氏らが主催する「ビジネスジャパンオープン」にて孫正義氏より孫正義賞を受賞し、これをきっかけとし、2000年6月佐賀大学4年次にオプティムを創業しました。(ただし、留年していた為、実際は3年生ですが…。)

そして、2002年に学部生活を7年半過ごしてしまいましたが佐賀大学を卒業することができました。卒業論文では、オプティムの事業計画に農業というキーワードを含んだだけの論文でしたが、寛容な小島先生、田中先生にご評価(お許し)いただき、無事に大学を卒業することが出来ました。小島先生、田中先生、ありがとうございました!

### 3. 今、夢中になっていること

現在、私が夢中になっていることは、今、世界を大きく変えつつあるIoT/ウェアラブル分野でビッグイノベーションを興すことです。

オプティムでは、IoT/ウェアラブル

のあらゆる情報の共有を行うサービスを世界に先駆け始めました。コマツ様の事例では建設現場をIT化し、建機を中心とした様々な機器の操作、作業を遠隔からサポートすることに共同で取り組んでいます。

また、当社は、積極的に研究開発を行い、知的財産を創出しています。研究開発の成果として、情報通信分野・特許資産規模ランキングでは、国内第9位、特許1件あたりの特許資産規模は国内で第1位



順位	順位	企業名	特許資産規模 (件)	特許件数
1	1	NFT	39,154	1,662
2	2	NTT	24,056	803
3	3	MIKROSOFT	20,847	755
4	12	パナソニック	12,733	312
5	4	ERICSSON	10,866	379
6	5	日本電気株式会社	6,385	300
7	7	KDDI	5,299	391
8	8	NTTコミュニケーションズ	4,537	144
9	34	オプティム	2,345	19
10	15	FRANCE TELECOM	1,945	72

を獲得することができています(※パテントリザルト社調べ)。日本は資源が乏しい国であり、知財立国となっていかなければならないと考えています。それにも関わらず世界の潮流とも逆行し知財を軽視する文化にあります。いつの日か、オプティムが、日本発(佐大発)の知的財産・世界No. 1企業になることにより、日本企業が知財を軽視している現状に一石を投じ、この日本の現状を変える兆しになりたいと考えています。

### 4. 後輩の皆さんへ

前述のとおり、佐賀大学をぎりぎり卒業できたような私が今の仕事を楽しみ、充実できている大きな理由は、好きなことを見つけられたことだと思います。学生時代は人生の中で多くの時間とチャンスがあります。この時代に、好きなこと、気に入ること、嫌にならないことを探す時間にしてほしいと思います。人生は想像以上に、思ったより機会にあふれています。私自身も学生時代に、佐賀大学と出会い、素晴らしい先生方と出会い、その影響で今の仕事できています。みなさんも、自ら歩み寄り、自らの人生に自らを変える“出会い”を与えてほしいと思います。

今が皆さんにとってどんな時だったかを決めるのは“未来”です。私自身、佐賀大学が第一志望でなく、佐賀大学にいることにうつむいていた時期もありました。しかし、今現在では佐賀大学で学べたことを誇りに思いますし、大変楽しい時だったと思います。そう思えるのは、私が今、人生を心から楽しめているからです。つまり、「今がどんな時だったかを決めるのは“未来”」だということです。好きなことを見つけ、そのことに一生懸命に集中して取り組むことで、今この瞬間が、未来の皆さんから見た時に素晴らしく輝かしい過去になっていることだと思います。

最後になりましたが、数多くの出会いを与えていただきました、佐賀の地、佐賀大学に、そして数々のことを教えていただき、私自身を変える機会へと導いてくださった先生方に心から深謝致します。



## 支部だより

### 佐賀県支部

佐賀県支部では、平成27年5月8日、「グランデはがくれ」において、第8回「農学部同窓会佐賀県支部総会」を開催しました。

総会には、第一回卒の宮原和夫先輩（S28年：植保）をはじめ、総勢30名が参加し、まず2名の物故会員（S28年農経：百武定弘先輩、S31年農化：大野正浩先輩）に黙祷を捧げ、澤野兵五幹事長（S44年：育種）の司会のもとに総会を開会しました。

大久保清海支部長（S41年：園芸）から会員が107名に拡大したことなど県支部における組織強化に向けた取組状況の挨拶を受け、また来賓として農学部同窓会の川副操会長を迎え、同窓会組織の活性化に向けた本部同窓会の動きを紹介していただきました。

懇親会では、久々にお会いする方も多く杯を酌み交わしながら懐かしい話に弾みました。家庭菜園、絵画、写真など趣味を深め生きがい発揮されている話や各種世話役など地域活動をリードされている取組、またタマネギ栽培の現役担い手として頑張っ



ているが、重労働で膝の具合が最近気になるなど、各先輩のそれぞれの活躍や苦労の様子を伺うことができました。

また、今回は、新入会員として森田昭さん（S52年：農経）、山口郁雄さん（S52年：農経）、堀賢太さん（S52年：果樹）、松尾孝則さん（S52年：病理）、熊谷正司さん（S53年：土改）、式町秀明さん（S54年：畜産）の6名を迎え、それぞれ新しい職場での抱負や今後の取組などを話していただきました。

最後は、田中一成先輩（S36年：畜産）の音頭で「楠の葉の」を歌い楽しい懇親会をお開きにしました。

内海修一（S49院卒・農経）

### 佐賀県庁支部

3月末日に佐賀県庁を退職される先輩を送るため、3月11日にグランデはがくれ（佐賀市天神2丁目）において、「先輩を送る会」を開催しました。

今年度末に退職される先輩は、森田先輩（農大）、松尾先輩（農試）、中村先輩（東部農林）、松本先輩（伊万里農林）、堀先輩（寮大）、西先輩（中部農林）、深町先輩（佐賀県税）、熊谷先輩（唐津農林）、藤瀬先輩（伊万里土木）、式町先輩（畜試）、晴氣先輩（果試）、大藪先輩（農試セ）の12名でした。

このうち、森田、松尾、西、熊谷、式町、晴氣の各先輩方が出席していただきました。

高田さんの先導による先輩方の入場、高尾副支部長の開会に始まり、田代支部長のあいさつ、記念品贈呈と花束贈呈、先輩を囲んでの記念写真、有志4名（田代さん、緒方さん、口木さん、陣内さん）による「高砂」祝謡、全員による旧学生歌「楠の葉の」



の合唱など出席した会員61名と先輩たちとの懇親が遅くまで続きました。

最後に、会員全員がアーチをつくり、その中を先輩方が通って退場していかれました。

先輩方の去っていく姿は名残惜しいものがありました。

「先輩を送る会」が滞りなく、終わることができて幹事一同「ホッ」としているところです。

妹脊 浩（S59年卒・育種）

## 園芸科

### 72A (昭和47年度入学) 園芸科同窓会を開催

38年ぶりの再会で互いにビックリ！ 昨年11月22日(土)佐賀市内の椿食堂において、農学部園芸学科S51年卒業生の同窓会を開催しました。なんと卒業後初めての同窓会です。昔の美男美女？が変わり果てた60過ぎのジジ・ババに。「よ～（少し間が空き）、ああ、〇〇かあ？」…私なんぞは、女子から「エ～琢ちゃんなの、エ～？」である。（なんだあ、そのエ～は！気持ちは若かりし頃のままなんだが、エ～エ～、頭が薄くなりましたよ、どうせジジイですよ）そんな驚きの再会場面があちこちで行われている時、小島先生と田代先生がお見えになり、「かんぱーい！」…38年ぶりだけあって、昔話に花が咲き、みんな今の姿を忘れ、青春時代に戻ることができたすばらしい時間でした。

二次会では、偶然にも開かれていた52年卒同窓会の後輩数名とも合流でき、またまた昔話の花満開でした。翌朝は、大学キャンパスの散策、昔の風景を探しつつ、またまた昔話に…尽きませんなあ。

今回は、卒業40周年として2年後のH28年11月頃(福岡?)を予定しています。その時も、「献盃」で



一次会記念撮影



懐かしのキャンパスで



「73A農学科・園芸学科」2014同窓会  
2014年11月22日 佐賀市 佐賀ワシントンプラザホテル

なく「乾杯」で始められるように、「みんな、健康に気をつけ元気でいてくださいね」

最後に、快く出席いただいた小島先生と田代先生にお礼を申し上げるとともに、幹事の不幸際にご案内できなかった先生方にお詫び申し上げ、同窓会の報告とします。

小川琢次 (S52年卒・果樹)

## 「台湾をめぐる自転車の旅」

古川 辰馬 (S40年卒・育種)

平成27年4月、2週間の日程で、生まれ故郷の台湾を自転車で旅した。今回の旅は、多くの偶然と幸運が重なり、景勝地のみならず、台湾人の心に触れる感銘深いものとなった。

きっかけは、台湾出身の方との偶然の出会い。彼女は、私の、72歳にして初めて生誕地を訪ね、併せて自転車で一周するという計画に共感し、熱心に応援してくれた。台湾に住む彼女の友人を通じ、支援の輪は私の知らない間に広がり、やがて台湾一周に同行してくれる人、生誕地を案内してくれる人まで現れた。数多くの台湾人に接し、その親切を実感する旅でもあった。

### 1 旅の概要

- 好天に恵まれ予定通り台湾を一周することが出来た。14日間のうち雨天は2日、但し、台湾南部の気温は連日30度を超えた。
- 台湾の幹線道路は2輪車専用の車線を有するので、バイクの多い大都市では注意を要するが、日本に比べると非常に走りやすかった。
- 飲食料の補給、トイレの使用は、コンビニ店、ガソリンスタ



ンドで出来たので問題はなかった。台湾のコンビニの数は確かに多い。

- 食事と宿泊は同行のSさんが全てやってくれた。彼の選んだ宿はどこも安くてきれい、二人で一部屋を使うので格安料金で泊まれた。食事は、朝は宿の中華風バイキング、昼は通りがかりの町の食

堂、夕食は夜市の食堂等で食べた。台湾名物の、果物満載のかき氷も何度か食べたが、お腹の方は大丈夫だった。

- 同行してくれたSさんとは言葉は通じなかったが、気持ちは通じたので一緒に旅するのに不都合はなかった。

## 2 思い出の場所など



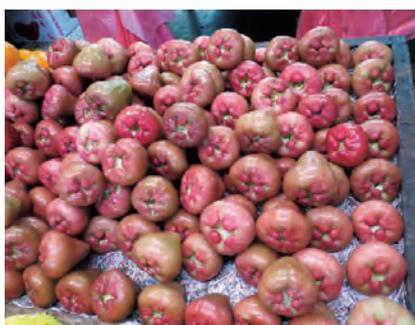
西岸の台中市と東岸の花蓮市を結ぶ国道8号線、中央山地には3千mを超える山々が聳え、最高峰は玉山(3,952m)。



8号線の最高地点、標高3,250mの峠の展望台、気温6度℃と寒い、峠までの約2kmを自転車で上った。



台湾西岸の水田地帯を走る国道1号線、右は出穂直前の稲、前方はいつもリードしてくれたSさん。



初めて目にし、口にしたら果物、蓮霧(れんぷ)、熱帯果樹らしからぬあっさりした甘さと食感が気に入った。



台湾南端の町の海岸、海の青と熱帯植物の緑が南国の雰囲気を感じさせてくれる。



私の生誕地訪問を報じる地元新聞、写真は戸籍事務所での父の謄本を戴いた時のもの。

「台湾をめぐる自転車の旅」と題する旅行記が古川辰馬(S40年卒・育種)氏から寄稿されましたが、紙面の都合でその概要のみを掲載します。全文の閲覧は「佐賀大学同窓会ホームページ・農学部同窓会・同窓生の広場」でお願いします。または、同窓会事務局へお尋ねください。

## 編集後記

佐賀大学農学部は昭和30年(1955年)に設置され、今年で60年を迎え記念の式典が行われました。日本の社会が、終戦から10年を経て経済も立ち直り、高度成長へと向かっていった時期です。農学部は、昭和26年4月に佐賀大学文理学部農学科として設置され、その後、昭和30年7月に文理学部から分離独立して、現在の農学部となっています。

今年、農学部は人生でいえば還暦で新たなスタート、同窓会誌「ありあけ」も新たな試みとして、これまで人材や技術面での関係の深い企業の広告を掲載させていただきました。更に、農学部記念として贈呈する応援歌の歌詞を募集しています。

今回の記念式典では、株式を上場された株式会社オプティムの菅谷社長(H14卒)、10年間のポストクを

経て宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターの准教授になられた児玉様(H14卒)の講演をお聞きしました。同窓会誌の編集を担当して、同窓会が主催する行事に参加する現役世代の同窓生が少ないことに不安を感じていましたが、お二人の活躍に感銘をうけました。

同窓会執行部は、会員の皆様に農学部の今を伝える活動をし、お互いの絆を深めていきたいと考えております。特に、近年では卒業生の半数以上を女性が占めるようになりました。女性の同窓生が周りにおられたら、是非お声かけください。農学部同窓会の明日を創るために、参加をお待ちしております。

編集担当：大久保 惇(S47年卒・土肥)

# 協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、皆様より協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げますとともに、協賛各社の今後のご発展をお祈り申し上げます。



企業理念 常在 お客様貢献

## 松尾建設株式会社

認証取得

ISO9001  
ISO14001

代表取締役社長 松尾 哲吾

松尾建設楠葉会(佐賀大学卒)一同

本店 〒840-8666 佐賀市八幡小路1番10号 TEL(0952)24-1181  
本社 〒810-8506 福岡市中央区薬院三丁目4番9号 TEL(092)525-0111  
東京本社 〒166-0003 杉並区高円寺南二丁目16番13号 TEL(03)5378-2271  
支店 仙台・東京・名古屋・大阪・広島・山口・北九州・福岡・佐賀・長崎  
熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄  
URL <http://www.matsuo.gr.jp>



Grain & Pet Care Communication

# 株式会社 森光商店

取締役社長 森光栄一

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7  
PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>

サラダ油・小麦粉といえば、  
やっぱり理研



理研農産化工株式会社

本

社 〒840-8691 佐賀市大財北町2番1号

TEL/0952-23-4181(代)

FAX/0952-29-9553

URL <http://www.riken-nosan.com/>

一番摘み海苔&初摘みFD大麦若葉

# 《青汁の革命》 始の青汁

ふりかけても  
good!!  
お料理にもOK!

タンパク質・  
カルシウム・  
葉酸・食物繊維・  
アミノ酸

健康食品

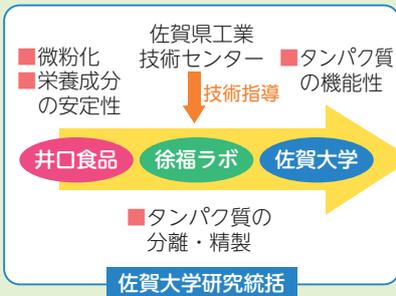
無農薬・無着色

産・管・学連携



弊社社長、井口始は佐賀有明海産一番摘み海苔のタンパク質に着目しました。一番摘み海苔は普通の海苔に比べ、タンパク質が1.5倍～2倍多く含まれています。平成24年、私共は機能性食品研究の世界的権威 柳田晃良佐賀大学名誉教授《現 西九州大学》、佐賀大学農学部と連携し、この海苔のタンパク質に風味を活かした青臭みがないスープ風の青汁を開発しました。

圧倒的栄養力



研究成果



機能性食品の  
世界的権威  
柳田晃良教授  
が開発参加!

味がいのち **いのち** 井口食品株式会社 佐賀工場 小城のり本店



TEL. 0120-117-905  
【月曜～金曜(祝日を除く) AM9:00～PM5:00】

FAX. 0120-117-907  
【24時間受付】

大ヒット  
御礼

单品 2,700円

单品送料 500円

(税込特価での販売です)

(2個以上注文で送料無料。北海道・沖縄・離島は別途料金必要です)

お支払いは商品到着後1週間以内に郵便振り込み(商品と一緒に請求書を同封しております)



天空の星空と夜景で乾杯!

## ビアテラス

▶▶▶ 9/23 [水・祝] まで営業中!!

営業時間 / 18:00～22:00 (os21:30)

★前日までの要予約 (4名さまより)

お料理プラン

ビアプラン ¥3,500

スタータープラン ¥2,200

+

飲み放題プラン

90分 ¥1,700

120分 ¥2,200

充実した単品メニューでもお楽しみいただけます。

ご予約・お問い合わせ TEL (0952) 25-9002

ホテル ニューオータニ佐賀

The New Otani

〒840-0047 佐賀市与賀町1-2 ☎0952-23-1111(代)  
www.newotani-saga.co.jp

# 佐藤さん家の有機JASみかん



有機JASみかんは、化学農薬・化学肥料・除草剤を一切使用していません！  
安心・安全をお届けします。



代表取締役 佐藤 陸

## 栽培品種

- スイートスプリング
- 温州みかん
- 伊予柑
- 清見
- はるか
- 河内晩柑
- マイヤーレモン
- ぽんかん
- 八朔
- 甘夏
- だいだい
- 不知火でこ
- リスボンレモン

## 佐藤農場株式会社

〒849-1324 佐賀県鹿島市大字飯田乙3574番地  
電話 0954-62-8334

## 読者の皆様こんにちは。同窓会報に初登場の(株)ヨシモトと(有)佐嘉の絲です。

株式会社 ヨシモトは、「匠の店 佐賀工房」として、えきマチ（JR佐賀駅構内）店、有明佐賀空港店、イオン大和店、コープさが新栄店の4店舗を展開している小売業です。菓子類、民芸・工芸品、陶磁器、畜産物、海産物など佐賀の逸品を取り揃えて皆様のお越しをお待ち申し上げております。ぜひ、お立ち寄りください。



「匠の店 佐賀工房」えきマチ店

### 《商標》 彩健食



有限会社 佐嘉の絲

次は、有限会社 佐嘉の絲ですが、佐賀海苔を練り込んだ海苔うどん・そうめん・パスタに加え、成人病予防に効果があるといわれている栄養成分「ルチン」を多く含むアスパラガスを練り込んだアスパラ平麺（何れも乾麺）を販売しております。これらの商品は安心・安全・美味・健康をコンセプトに作り上げた世界でも類を見ないオンリーワン商品として、また料理にも幅広く利用できることから人気を博しております。佐賀県内の道の駅、農産物直売所、匠の店佐賀工房の4店舗等で販売しておりますので、お買い求め戴き、その美味しさを味わってみてください。